

授業科目	カレッジイベント〔トレ3〕		担当教員	土岐 政義	
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	イベントを楽しく成功させる為の方法をディスカッションを通じ企画する事を目的とする。				
到達目標	誰もが楽しめるイベントを目指す。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料を配布。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート 20% 提出物 20% その他 60%（受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%）		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	60			
履修上の留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。、人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	カレッジイベント内容	イベントの内容説明		
	2	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	3	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認		
	4	イベント実施	スポーツ大会		
	5	振り返り	レポート作成、提出		
	6	カレッジイベント内容	イベントの内容説明		
	7	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	8	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認		
	9	イベント実施	スポーツフェスティバル		
	10	振り返り	レポート作成、提出		
	11	カレッジイベント内容	イベントの内容説明		
	12	役割分担	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者の決定		
	13	リハーサル	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者 当日準備		
	14	イベント実施	学園祭		
15	振り返り	レポート作成、提出			

[illegible]

授業科目	カレッジイベント 〔MT3・PH3〕		担当教員		
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	イベントを楽しく成功させる為の方法をディスカッションを通じ企画する事を目的とする。				
到達目標	誰もが楽しめるイベントを目指す。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料を配布。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート 20% 提出物 20% その他 60%（受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%）		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	60			
履修上の留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。、人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	カレッジイベント内容	イベントの内容説明		
	2	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	3	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認		
	4	イベント実施	スポーツ大会		
	5	振り返り	レポート作成、提出		
	6	カレッジイベント内容	イベントの内容説明		
	7	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	8	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認		
	9	イベント実施	スポーツフェスティバル		
	10	振り返り	レポート作成、提出		
	11	カレッジイベント内容	イベントの内容説明		
	12	役割分担	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者の決定		
	13	リハーサル	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者 当日準備		
	14	イベント実施	学園祭		
15	振り返り	レポート作成、提出			

[illegible]

授業科目	コミュニケーション〔トレ3〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	社会人として「どうあるべきか？」を理解し、すぐ実践できることを目的とする。				
到達目標	2年次からの積み上げとして、社会人としての在り方を確認し実践できることを目標とする。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて、資料を配布する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート 20% 提出物 20% その他 60%（受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%）		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	就職活動に向けて	履歴書の記入方法		
	2	就職活動に向けて	自己分析 自分の強み、弱さ、今後どのように成長していくか、どのような職業人でありたいか		
	3	就職活動に向けて	業界研究 進みたい分野においての調査		
	4	就職活動に向けて	就職情報サイトの利用方法		
	5	面接試験に向けて	心構え、様々な面接試験について		
	6	面接試験に向けて	入退室、面接試験体験		
	7	面接試験に向けて	入退室、面接試験体験		
	8	一般常識	漢字（読み・書き）		
	9	一般常識	丁寧語、敬語		
	10	一般常識	挨拶、接遇		
	11	一般常識	マナー、一般常識（応用）		
	12	一般常識	ペア対話、グループ対話		
	13	まとめ	確認テスト（読み・書き・丁寧語・敬語）		
	14	まとめ	確認テスト（挨拶・接遇）		
	15	まとめ	確認テスト（マナー・一般常識応用）		

[illegible]

授業科目	ジュニアスポーツ指導の基礎〔PH3〕		担当教員	今北 雄太		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	選択(PH) / 必修	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	
授業目的	子どもスポーツの指導者としての基礎を学びます。各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気を引き出し、運動能力を高めるコミュニケーション方法や指導方法を学びます。ジュニアスポーツ指導員の合格を目指します。					
到達目標	今日の子どもの現状、発育発達期の身体的・心理的特徴を理解し説明する事が出来る。					
テキスト・参考図書等	公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	小テストの結果および提出物の内容、その他（受講姿勢、受講態度等）を総合的に評価する。			
	レポート	0				
	小テスト	50				
	提出物	20				
	その他	30				
履修上の留意事項	教本やワークブックを中心に授業展開します。小テストを行います。ノートを使いますので用意してください。ジュニアスポーツ指導員資格の出題範囲にもなっています。毎時間きっちり楽しみながら勉強しましょう！！					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	第1章 概論	子どもにおける運動、スポーツの意義・価値 子どもを取り巻く環境、体力の現状と課題			
	2	第1章 概論	子どもの身体活動ガイドライン / アクティブチャイルドプログラム			
	3	第1章 概論	子どものスポーツ活動の現状と課題 / 発育発達期の遅速と競技成績 / ジュニアスポーツ指導員の役割			
	4	第2章 コーチング	子どもスポーツ / コミュニケーションスキル / 良い指導者としての観点			
	5	第2章 コーチング	ジュニア期のコーチングの目指すもの / 指導の留意点			
	6	第2章 コーチング	発達に応じたコーチング / プログラム作成時のポイント			
	7	第2章 コーチング	安全管理上の配慮事項 / コーチングの実践事例 / ケーススタディ			
	8	第3章 体力	発育期の体格と体力 / からだ（形態）の発育・発達			
	9	第3章 体力	運動能力（機能）の発育・発達 / 体力の測定と評価			
	10	第4章 動きの発達	発育期（幼児・児童・思春期以降）における動きの発達 / 動きの獲得			
	11	第4章 動きの発達	発達特性と個人差 / 動きの質的評価			
	12	第4章 動きの発達	動きの評価から指導へ / 指導への応用			
	13	第5章 心理	運動能力の構成 / こころの発達			
	14	第5章 心理	子どもの心理的特徴 / 心理的アプローチ			
	15	第5章 心理	子ども達のストレスマネジメント			

[illegible]

授業科目	ジュニアスポーツ指導の実際〔PH3〕		担当教員	今北 雄太		
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	選択(PH) / 必修	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	
授業目的	「スポーツ」を多角的視野から学ぶことにより、ジュニアスポーツ指導者の役割について理解し、ジュニアスポーツにおける指導ができる力を養う。 子どもたちの将来に良い影響を与える運動指導の在り方とは何かを理解する。 ジュニアスポーツ指導員資格の取得を目指す。					
到達目標	ジュニア期の特徴とスポーツ指導者の役割について理解し、適切な運動プログラムを作成し実際に指導することが出来る。					
テキスト・参考図書等	公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	授業内で課す提出物(課題・指導案等)や小テスト(知識確認・指導実践等)の結果およびその他(出席状況、受講態度等)を総合的に評価する。			
	レポート	0				
	小テスト	40				
	提出物	40				
	その他	20				
履修上の留意事項	教本やワークブックを中心に授業展開します。グループワークを重ね指導方法について理解を深めていきます。その中での成果物を評価していきます。また指導実践を行い、その内容を小テストとして評価します。毎時間楽しみながら実践力を身につけていきましょう！！					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	第6章 栄養	成長期における食事のあり方 / ジュニアスポーツにおける食事の意義			
	2	第6章 栄養	栄養摂取の過不足で起こる問題とその予防 / 栄養障害 / 熱中症			
	3	第6章 栄養	スポーツ食育の勧め方 / 水分補給			
	4	第7章 スポーツ医学	からだの構造と成長発達			
	5	第7章 スポーツ医学	スポーツと内科的障害 / スポーツによる外障と障害			
	6	第7章 スポーツ医学	スポーツ外傷・障害予防への取り組み			
	7	第8章 女性とスポーツ	女性の身体的・体力的特徴			
	8	第8章 女性とスポーツ	女性において起こりやすい諸問題 / 摂食障害 / 貧血			
	9	第8章 女性とスポーツ	月経とコンディショニング			
	10	実技編 運動遊び・スポーツ	発達段階に応じた運動遊び・スポーツの選択			
	11	実技編 運動遊び・スポーツ	スポーツ指導における運動遊びの活用			
	12	実技編 運動遊び・スポーツ	アイスブレイクの必要性			
	13	実技編 運動遊び・スポーツ	運動遊びをアレンジする必要性			
	14	指導プログラム作成と実践	プログラムを作成し実践する			
	15	指導プログラム作成と実践	プログラムを作成し実践する			

授業科目	ジュニアスポーツ指導の実際 〔PH3〕	担当 教員 実務 経験	今北雄太 有：■ 無：□	スポーツ指導員
対象年次・学期	2 年・後期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	ジュニアスポーツ指導員対策〔PH3〕		担当教員	今北 雄太	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修／選択（TR）	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	ジュニアスポーツ指導員と必要な知識（発育発達、体力、心理、栄養、医学、性差）を理解し、検定合格を目指す。				
到達目標	子どもの発育発達段階に沿った運動プログラムを作成し指導実践できる。				
テキスト・参考図書等	公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	模擬試験の他、提出物、受講姿勢等で総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	10			
	その他	20			
履修上の留意事項	ジュニアスポーツ指導員は子ども達にとって憧れの存在です！運動技能はもちろん、心の成長を目の当たりにすることが出来る素晴らしいさがあります。ジュニアスポーツ指導員合格を目指して頑張りましょう！！				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ジュニアスポーツ指導員対策理論 1	第1章 概論 子どもの体力・運動能力の現状と課題～ジュニアスポーツ指導員の役割など		
	2	ジュニアスポーツ指導員対策理論 2	第2章 コーチング 発達に応じたコーチングとコーチングにおける留意点		
	3	ジュニアスポーツ指導員対策理論 3	第3章 体力 発育期発達期の体格、体力、体力テスト		
	4	ジュニアスポーツ指導員対策理論 4	第4章 動きの発達 幼児期、児童期、思春期以降		
	5	ジュニアスポーツ指導員対策理論 5	第5章 心理 有能感の発達、運動遊びと認知的発達		
	6	ジュニアスポーツ指導員対策理論 6	第6章 栄養 ジュニア期の栄養バランス		
	7	ジュニアスポーツ指導員対策理論 7	第7章 医学 小児の成長、安全で科学的な運動指導		
	8	ジュニアスポーツ指導員対策理論 8	第8章 医学 ジュニア期のスポーツ外傷・障害の実際		
	9	ジュニアスポーツ指導員対策理論 9	第9章 女性とスポーツ 女性において起こりやすい諸問題		
	10	ジュニアスポーツ指導員対策理論 10	第10章 運動遊び 遊び、アイスブレイクとレパートリーアレンジ		
	11	ジュニアスポーツ指導員模擬試験 1	第1章と2章		
	12	ジュニアスポーツ指導員模擬試験 2	第3章と4章		
	13	ジュニアスポーツ指導員模擬試験 3	第5章と6章		
	14	ジュニアスポーツ指導員模擬試験 4	第7章と8章		
	15	ジュニアスポーツ指導員模擬試験 5	第9章と10章		

[illegible]

授業科目	ジュニアスポーツ指導実習 〔PH3・IN2・CO2・SB2〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	2年・3年前期		必修・選択区分	選択（TR・SB・PH）／必修（IN・CO）	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	子どもへのスイミングレッスンまたは体育指導、運動遊びを計画→実施→反省を行うことで、指導技術を習得する。また、実際に子どもと関わることで、実践的な子どもへのスポーツ指導法を学ぶ。				
到達目標	グループワークを通して、インストラクターの役割への理解。実習を通して、レッスンの計画方法の立案、子ども達への対応ができる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート・提出物の内容や期日がしっかり守られ、提出されたら評価する。 その他は指導案作成中や指導中の姿勢で評価する。		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	60			
履修上の留意事項	指導計画案の作成や反省会は教室で実施し、グループワークを中心に進めます。班別指導実習が中心です。実習後には反省→日誌の記入→提出となります。初回は教室でオリエンテーションを行います。水泳指導においては、水に慣れていない子どもも多いので、計画の段階から責任感を強く持って授業に臨んでください。実習が始まれば、毎日が本番となります。常に緊張感を忘れず、実習を行ってください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション／指導計画の作成	オリエンテーション／指導計画・指導案作成		
	2	指導計画の作成	指導実習計画・指導案作成		
	3	指導計画案の作成	指導実習計画・指導案見直し		
	4	指導計画案の作成	指導実習計画・指導案見直し		
	5	指導計画案の予行演習	指導技術（補助・道具の利用方法）の練習		
	6	指導計画案の予行演習	指導技術（補助・道具の利用方法）の練習		
	7	指導計画案の予行演習	指導実習の練習・指導案見直し		
	8	指導計画案の予行演習	指導実習の練習・指導案見直し		
	9	指導実習	幼児A - 1		
	10	指導実習	保育園、スクール指導実習予定		
	11	指導実習	幼児A - 2		
	12	指導実習	保育園、スクール指導実習予定		
	13	指導実習	幼児A - 3		
	14	指導実習	保育園、スクール指導実習予定		
	15	指導実習	幼児A - 1		
	16	指導実習	保育園、スクール指導実習予定		
	17	指導実習	幼児A - 2		
	18	指導実習	保育園、スクール指導実習予定		
	19	指導実習	幼児A - 3		
	20	指導実習	保育園、スクール指導実習予定		

	21	指導実習	幼児 A - 1
	22	指導実習	幼児 B
	23	指導実習	幼児 A - 2
	24	指導実習	幼児 B
	25	指導実習	幼児 A - 3
	26	指導実習	幼児 B
	27	指導実習振り返り	幼児 AB 実習反省まとめ各班資料作成
	28	指導実習振り返り	幼児 AB 実習反省まとめ各班資料作成
	29	指導実習振り返り	幼児 AB 実習反省まとめ各班資料作成
	30	指導実習振り返り	全体発表

授業科目	ジュニアスポーツ指導実習 〔PH3・IN2・CO2・SB2〕	担当 教員 実務 経験	中根望 有：■ 無：□	インストラクター
対象年次・学期	2年・3年前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
			担当 教員 実務 経験	

授業科目	スイミングスキル〔PH3〕		担当教員	今井 由美子	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	各種泳法の基本技術を向上させ、指導員として模範となる泳ぎを習得する。効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のスピードアップを目指すことで水泳コーチ1の取得を目指す。また指導の仕方も習得し、実践能力を身に付ける。				
到達目標	水泳コーチ1を合格するための基準タイムをクリアし、泳力、テクニックを身につけ、今よりもより効率的な泳ぎができる。 到達目標 個人メドレーのタイムを計測し、基準タイムプラス5秒以内泳ぐことができる(第22回授業終了時) 到達目標 指導法を理解し実践できる(第15回授業終了時) 到達目標 4泳法を正しく泳ぐことができる(第11回終了時授業)				
テキスト・参考図書等	水泳指導教本・プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業内にて行う小テスト、レポート(提出期日、内容)、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	10			
	小テスト	80			
	提出物	0			
	その他	10			
履修上の留意事項	プールでの実技中心。必要な時はプリント配布。、各種泳法等の技術習得は、様々な指導をする上での自信になりますし、幅広く活用できます。最終目標は個人によって様々でしょうが、それぞれの目標に向かって頑張りましょう。体調を万全にして授業に臨んでください。水泳コーチ1を受験する学生は、必ず履修してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	泳法確認		
	2	能力確認	100m 個人メドレータイム計測・基本技術確認・安全水泳		
	3	各種泳法スキルアップ	Fr / 持久力トレーニング / スカリング		
	4	各種泳法スキルアップ	Fr / スピードトレーニング / スカリング		
	5	各種泳法スキルアップ	Ba / 持久力トレーニング / スカリング		
	6	各種泳法スキルアップ	Ba / スピードトレーニング / スカリング		
	7	各種泳法スキルアップ	Br / 持久力トレーニング / スカリング		
	8	各種泳法スキルアップ	Br / スピードトレーニング / スカリング		
	9	各種泳法スキルアップ	Fly / 持久力トレーニング / 潜行 / 横泳ぎ		
	10	各種泳法スキルアップ	Fly / スピードトレーニング / 潜行 / 横泳ぎ		
	11	泳法確認テスト	4泳法の確認テスト		
	12	指導実習	指導法実習		
	13	指導実習	個人指導		
	14	指導実習	集団指導		
	15	指導法確認テスト	指導法確認テスト		
	16	各種泳法スキルアップ	IM ターン / スピードトレーニング / 潜行 / 横泳ぎ		
	17	各種泳法スキルアップ	IM ターン / スピードトレーニング / 潜行 / 横泳ぎ		
	18	各種泳法スキルアップ	IM ターン / スピードトレーニング / 潜行 / 横泳ぎ		
19	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久力トレーニング、横泳ぎ、			

			潜行、飛び込み
20	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久カトレーニング、横泳ぎ、 潜行、飛び込み	
21	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久カトレーニング、横泳ぎ、 潜行、飛び込み	
22	タイム計測	100m個人メドレータイム計測	
23	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久カトレーニング、飛び込み	
24	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久カトレーニング飛び込み	
25	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久カトレーニング、飛び込み	
26	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピードトレーニング、横泳ぎ	
27	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み	
28	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み	
29	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み	
30	タイム計測	100m個人メドレータイム計測	

授業科目	スイミングスキル〔PH3〕	担当 教員 実務 経験	今井由美子 有：□ 無：■	
対象年次・学期	2 年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	スポーツコンディショニング 〔MT3・PH3〕		担当教員	石川 凌	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	スポーツ選手のみならず、ジュニアから高齢者までどのような対象者でも対応できるコンディショニング方法を実践し、指導方法を理解することを目的とする。				
到達目標	アスリートに対するコンディショニング（特にトレーニング）ができる。ジュニア、高齢者への運動指導ができる。				
テキスト・参考図書等	公認アスレティックトレーナー 専門科目6 予防とコンディショニング				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	試験、その他(出席および授業態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	40			
履修上の留意事項	特になし。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業内容の説明、諸注意、その他		
	2	概論	コンディショニングに関する基本的な知識を学習します		
	3	膝関節の解剖と機能および傷害	コンディショニング指導に必要な基礎知識の復習		
	4	膝関節の解剖と機能および傷害	コンディショニング指導に必要な基礎知識の復習		
	5	膝関節のコンディショニング	解剖や傷害特性を踏まえたコンディショニング指導の実践		
	6	膝関節のコンディショニング	解剖や傷害特性を踏まえたコンディショニング指導の実践		
	7	足関節の解剖と機能および傷害	コンディショニング指導に必要な基礎知識の復習		
	8	足関節の解剖と機能および傷害	コンディショニング指導に必要な基礎知識の復習		
	9	足関節のコンディショニング	解剖や傷害特性を踏まえたコンディショニング指導の実践		
	10	足関節のコンディショニング	解剖や傷害特性を踏まえたコンディショニング指導の実践		
	11	股関節の解剖と機能および傷害	コンディショニング指導に必要な基礎知識の復習		
	12	股関節の解剖と機能および傷害	コンディショニング指導に必要な基礎知識の復習		
	13	股関節のコンディショニング	解剖や傷害特性を踏まえたコンディショニング指導の実践		
	14	股関節のコンディショニング	解剖や傷害特性を踏まえたコンディショニング指導の実践		
	15	まとめ1			
	16	前期復習			
	17	肩関節の解剖と機能および傷害	コンディショニング指導に必要な基礎知識の復習		
	18	肩関節の解剖と機能および傷害	コンディショニング指導に必要な基礎知識の復習		
	19	肩関節のコンディショニング	解剖や傷害特性を踏まえたコンディショニング指導の実践		

	20	肩関節のコンディショニング	解剖や傷害特性を踏まえたコンディショニング指導の実践
	21	脊柱の解剖と機能および傷害	コンディショニング指導に必要な基礎知識の復習
	22	脊柱の解剖と機能および傷害	コンディショニング指導に必要な基礎知識の復習
	23	脊柱周囲のコンディショニング	解剖や傷害特性を踏まえたコンディショニング指導の実践
	24	脊柱周囲のコンディショニング	解剖や傷害特性を踏まえたコンディショニング指導の実践
	25	コンディショニングトレーニングの立案および実践 1	目的に応じたコンディショニングトレーニングの立案および実践
	26	コンディショニングトレーニングの立案および実践 2	目的に応じたコンディショニングトレーニングの立案および実践
	27	コンディショニングトレーニングの立案および実践 3	目的に応じたコンディショニングトレーニングの立案および実践
	28	コンディショニングトレーニングの立案および実践 4	目的に応じたコンディショニングトレーニングの立案および実践
	29	コンディショニングトレーニングの立案および実践 5	目的に応じたコンディショニングトレーニングの立案および実践
	30	総復習	

[illegible]

授業科目	スポーツマッサージ〔MT3・PH3・TR2〕		担当教員	高田 健介	
対象年次・学期	3年／2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
					30時間
授業目的	スポーツの現場における安心・安全の知識とケア技術を実技を通して学びましょう				
到達目標	体表解剖を理解し、安全に人の身体を触る事ができる。				
テキスト・参考図書等	実技テストは、人の身体安全に扱える扱えるか、目的の筋肉を動かせるか。 その他は、受講態度や出席率などの平常点。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	30	試験、その他(受講姿勢、理解度、出席率など)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	70			
履修上の留意事項	トレーナーズルームを使用し、毎週各部位を変えながら実技講習を行う。 生徒同士でお互いに身体を借りて、体表解剖の知識を学びながら気持ち良く普段の疲れも癒し体験しながら楽しい授業にしましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	手技の説明、適応、禁忌など		
	2	下肢（下腿三頭筋）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	3	下肢（足底）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	4	下肢（ハムストリングス）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	5	下肢（大腿四頭筋）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	6	腰・背中・臀部（臀部）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	7	腰・背中・臀部（腰）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	8	腰・背中・臀部（背中）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	9	頸・肩・腕（肩・肩甲骨）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	10	頸・肩・腕（頸・頭）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	11	頸・肩・腕（上腕・前腕・手）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	12	頸・肩・腕（仰臥位の頸・肩）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	13	テスト対策	復習		
	14	実技テスト	個別実技テスト		
15	その他マッサージ＋実技テスト予備日	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点			

[illegible]

授業科目	スポーツ栄養学〔MT3・PH3〕		担当教員	小松 信隆	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	スポーツ栄養学の基本、食事からの栄養摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。				
到達目標	スポーツ栄養学の基本を理解し、様々な状況に対応した具体的なスポーツ栄養コンディショニングの計画を立てられるようになる。 また、選手の栄養評価ができるようになる。				
テキスト・参考図書等	Reference Book(公益財団法人日本スポーツ協会) 公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト9 新ビジュアル食品成分表				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	講義毎の小レポートまたは小テストで45%、実習時のレポートで5%、試験50%で評価。 但し、実習時のレポート提出がない場合は他の点数に関わらず不可とする。		
	レポート	5			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	15			
履修上の留意事項	やむを得ず講義を欠席した場合は他の受講者（同グループ）より講義内容を確認の上、自習して次の講義に臨むこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	スポーツ種目の特性とエネルギー代謝	具体的なスポーツ種目を設定し、エネルギー代謝の特性を理解し説明できるようになる。		
	2	スポーツ種目の特性とエネルギー代謝	具体的なスポーツ種目を設定し、エネルギー代謝の特性を理解し説明できるようになる。		
	3	スポーツ選手の栄養評価	スポーツ選手の栄養評価方法について理解し説明できるようになる。		
	4	スポーツ選手の栄養指導	栄養評価した内容を基に、食事指導について理解し説明できるようになる。		
	5	調理実習ガイダンス	調理実習 のガイダンス		
	6	献立作成	献立作成の方法について理解し献立作成ができるようになる。		
	7	献立作成	テーマ別の献立作成（エネルギー補給）		
	8	献立作成	テーマ別の献立作成（身体づくり・リカバリー）		
	9	作業工程表作成	調理実習 作業工程を作成する。		
	10	作業工程表作成	調理実習 作業工程を作成する。		
	11	スポーツ栄養学のまとめ	1～10回の講義のまとめ		
	12	調理実習	アスリートメニューを作成し、実際に食べた時の感覚を確認し、説明できるようになる。		
	13	調理実習	調理実習 のまとめとレポート作成		
	14	調理実習	アスリートメニューを作成し、実際に食べた時の感覚を確認し、説明できるようになる。		
15	調理実習	アスリートメニューを作成し、実際に食べた時の感覚を確認し、説明できるようになる。			

[illegible]

授業科目	テーピングテクニック 〔MT3・PH3〕		担当教員	土岐 政義	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	基本的な機能解剖学およびスポーツ外傷学の知識をベースとした各部位におけるテーピング技術を学ぶ。				
到達目標	トレーナー、スポーツ指導者として、正確で、素早い、機能的なテーピングを行うことができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	実技試験の結果およびその他（受講姿勢、受講態度等）を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	0			
	その他	50			
履修上の留意事項	デモンストレーション後、各人に実技練習をしてもらいます。テーピング部位に関しての解剖学、運動学、外傷学の知識習得も同時に行う。、実技試験は授業にて実施、テーピングを行う部位により、Tシャツ、ハーフパンツ着用の指示あり、トレーナー、スポーツ指導者にとってテーピングテクニックは、絶対に身につけなければならない手技の一つです。何度も反復練習し自身のバリエーションを増やしましょう。皆さんの積極的な取組を期待しています。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス/テーピング総論	講義の説明、その他/テーピング実施時の注意事項		
	2	足関節	足関節内返し捻挫 復習		
	3	足関節	伸縮テーピングを用いた足関節内返し捻挫のテーピング		
	4	足関節	伸縮テーピングを用いた足関節内返し捻挫のテーピング		
	5	足関節	足関節外返し捻挫、応急処置のテーピング		
	6	実技試験	足関節（小テスト）		
	7	足部	母趾過伸展捻挫、種子骨障害、踵部挫傷		
	8	足部	足底腱膜炎のテーピング(非伸縮、伸縮)		
	9	実技試験	足底腱膜炎、母趾過伸展捻挫、種子骨障害、踵部挫傷（小テスト）		
	10	足関節(底屈制限)	有痛性三角骨、距骨後突起障害、前脛骨筋腱炎、前脛腓靱帯損傷		
	11	足関節(背屈制限)	フットボーラーズアングル、アキレス腱炎、前脛腓靱帯損傷		
	12	実技試験	底屈制限、背屈制限（小テスト）		
	13	足関節	アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎、アキレス腱部滑液包炎		
	14	下腿部	下腿三頭筋肉ばなれ、シンスプリント		
	15	実技試験	アキレス腱炎(3種)、下腿肉離れ、シンシプリント（小テスト）		
	16	膝関節	ACL、MCL,LCL 靱帯損傷		
	17	膝関節	ACL、MCL,LCL 靱帯損傷		
	18	膝関節	ACL、MCL,LCL 靱帯損傷		
	19	膝関節	ACL、MCL,LCL 靱帯損傷		
	20	膝関節	ACL、MCL,LCL 靱帯損傷		

	21	実技試験	ACL、MCL,LCL 靱帯損傷（小テスト）
	22	大腿部	大腿部打撲・肉ばなれ
	23	大腿部	大腿部打撲・肉ばなれ
	24	実技試験	大腿部打撲・肉ばなれ （小テスト）
	25	肩関節	肩関節反復性前方脱臼、肩鎖関節捻挫
	26	肩関節	肩関節反復性前方脱臼、肩鎖関節捻挫
	27	実技試験	肩関節反復性前方脱臼、肩鎖関節捻挫 （小テスト）
	28	肘関節	肘関節過伸展捻挫、肘関節内側側副靱帯損傷
	29	手関節	手関節捻挫、指捻挫
	30	実技試験	肘関節、手関節 （小テスト）

[illegible]

授業科目	フィジカルトレーニング 〔PH3〕		担当教員	菊池 諒	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	フィジカル能力向上のためのトレーニング立案、指導実践を行う。				
到達目標	スポーツにおけるフィジカル能力向上のために必要なトレーニングの立案、指導実践が出来る。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	「レポート」...各テーマごとにトレーニングメニューを立案し、それを記入したレポートを評価する。 「小テスト」...各テーマごとに指導実践を行い、その内容を評価する。 「その他」...授業への取り組み姿勢を評価する。		
	レポート	40			
	小テスト	40			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の 留意事項	トレーニング実践のみならず、立案、指導実践をお互いに行い、指導現場で即戦力となるような人材を目指していきましょう！				
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業内容の説明、諸注意、その他。		
	2	筋肥大トレーニング立案	下肢における筋肥大メニューを立案する。		
	3	筋肥大トレーニング指導実践 1	下肢トレーニング指導実践。		
	4	筋肥大トレーニング指導実践 2	〃		
	5	筋肥大トレーニング立案	上腕における筋肥大メニューを立案する。		
	6	筋肥大トレーニング指導実践 1	上腕トレーニング指導実践。		
	7	筋肥大トレーニング指導実践 2	〃		
	8	筋肥大トレーニング立案	肩における筋肥大メニューを立案する。		
	9	筋肥大トレーニング指導実践 1	肩トレーニング指導実践。		
	10	筋肥大トレーニング指導実践 2	〃		
	11	筋肥大トレーニング立案	背部における筋肥大メニューを立案する。		
	12	筋肥大トレーニング指導実践 1	背部トレーニング指導実践。		
	13	筋肥大トレーニング指導実践 2	〃		
	14	前期まとめ	クライアントのニーズに合わせたトレーニングプログラムの立案。		
	15	前期まとめ	クライアントのニーズに合わせたトレーニングプログラムの指導実践。		
	16	体幹部トレーニング立案	スタビライゼーショントレーニングを立案する。		
	17	体幹部トレーニング指導実践 1	スタビライゼーショントレーニング指導実践。		
	18	体幹部トレーニング指導実践 2	〃		
	19	体幹部トレーニング立案			
	20	体幹部トレーニング指導実践	ジャンプ力向上に特化したトレーニングの実践。		

		践 1	
	21	体幹部トレーニング指導実践 2	〃
	22	アジリティートレーニング立案	アジリティートレーニングを立案する。
	23	アジリティートレーニング 1	アジリティートレーニング指導実践。
	24	アジリティートレーニング 2	〃
	25	プライオメトリクストレーニング立案	プライオメトリクストレーニングを立案する。
	26	プライオメトリクストレーニング実践 1	プライオメトリクストレーニング指導実践。
	27	プライオメトリクストレーニング実践 2	〃
	28	振り返り	1 年間のトレーニング指導の振り返り。
	29	後期まとめ	クライアントのニーズに合わせたトレーニングプログラムの立案。
	30	後期まとめ	クライアントのニーズに合わせたトレーニングプログラムの指導実践。

授業科目	フィジカルトレーニング 〔PH3〕	担当 教員 実務 経験	菊池 諒 有：■ 無：□	トレーニング指導者
対象年次・学期	3 年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	メディカルリハビリテーション〔MT3・PH3〕		担当教員	上田 竜也	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	解剖・外傷・障害・疾患・評価に基づいたリハビリテーションについて学習する。実際に病院やデイサービス等で行われているリハビリテーションに関しても理解を深める。				
到達目標	外傷・障害・疾病を考慮し、リスク管理の重要性を理解する。インシデント・アクシデントに関しても理解する。回復期もしくは維持期に関するリハビリテーションを立案・指導できる。				
テキスト・参考図書等	プリントを用意します。 解剖学に関するテキスト（各自）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	講義中における小テスト、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	10			
	小テスト	40			
	提出物	0			
	その他	50			
履修上の留意事項	配付プリントにそった授業展開。実技を行うこともありますので、ジャージ等動ける服装の準備をお願いします。（実技の際は事前に通達します）				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	学習達成目標、講義進行にあたり諸注意の説明、成績評価、その他、メディカルリハビリテーションとは、		
	2	メディカルリハビリテーション総論	解剖学中心に復習		
	3	メディカルリハビリテーション総論	医療保険と介護保険について		
	4	メディカルリハビリテーション総論	歩行について理解する。		
	5	整形外科的疾患に対するメディカルリハビリテーション	上肢中心に整形外科的疾患を理解し、メディカルリハビリテーションの立案指導する。		
	6	整形外科的疾患に対するメディカルリハビリテーション	下肢中心に整形外科的疾患を理解し、メディカルリハビリテーションの立案指導する。		
	7	整形外科的疾患に対するメディカルリハビリテーション	上肢下肢以外の整形外科的疾患を理解し、メディカルリハビリテーションの立案指導する。		
	8	高齢者に対するメディカルリハビリテーション	高齢者に対するリハビリテーションの基本的な考え方やリスク管理について理解する。		
	9	高齢者に対するメディカルリハビリテーション	高齢者特有の特性を理解し、メディカルリハビリテーションの立案、指導を行う。		
	10	高齢者に対するメディカルリハビリテーション	高齢者の体力・筋力増進に関する具体的な指導内容を検討し、リスク管理をした上でメディカルリハビリテーションの立案、指導を行う。		
	11	廃用症候群に対するメディカルリハビリテーション	廃用症候群について学習し、ディスカッションの実施。		
	12	廃用症候群に対するメディカルリハビリテーション	廃用症候群に対するメディカルリハビリテーションの立案と指導を行う。		
	13	廃用症候群に対するメディカルリハビリテーション	廃用症候群に対するリスク管理、運動指導内容についてディスカッションを行う。		
	14	前期のまとめ	前期授業のまとめ		
	15	前期のまとめ	前期まとめテスト		
	16	テーピング療法	テーピング療法の効果について学ぶ。実技あり		
17	テーピング療法	テーピング療法の効果について学ぶ。実技あり			

	18	添書を理解する。	医療現場における添書の内容を理解する。
	19	MMT 上肢	徒手筋力テストにおける筋力評価を実施。
	20	MMT 下肢	徒手筋力テストにおける筋力評価を実施。
	21	ADL について理解する。	ADL、IADL の理解を深める。
	22	バイタルサイン、バイタルチェックについて	基本的なバイタルサイン、バイタルチェックについて理解、実施できるようにする。
	23	スポーツ障害について理解する。	サッカーにおける特有のスポーツ障害に対してディスカッション含め、メディカルリハビリテーションの立案、指導を行う。
	24	スポーツ障害について理解する。	バレーボールにおける特有のスポーツ障害に対してディスカッション含め、メディカルリハビリテーションの立案、指導を行う。
	25	スポーツ障害について理解する。	野球における特有のスポーツ障害に対してディスカッション含め、メディカルリハビリテーションの立案、指導を行う。
	26	脳血管疾患について理解する。	脳血管疾患について理解し、メディカルリハビリテーションの立案、指導を行う。
	27	脳血管疾患について理解する。	脳血管疾患について理解し、メディカルリハビリテーションの立案、指導を行う。
	28	後期のまとめ	小テスト、後期のまとめ
	29	まとめ	グループワーク
	30	まとめ	グループワーク発表（後期試験）

[illegible]

授業科目	外国語〔トレ3・健康2〕		担当教員	斉藤 恵	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修（SB）・選択	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	外国語を学びながら言語や文化に関する理解を深め、さまざまな分野でのコミュニケーション能力を身につけるとともに、英語を将来の自分の仕事に役立てていきたいという意識を養う。				
到達目標	1) 挨拶からビジネスシーンでも使える自然な英語表現を理解する 2) 日常のやさしい会話を聞き、理解する 3) 単語を正確に理解し語彙力を高める				
テキスト・参考図書等	英会話 1000本ノック（コスモピア） / プリント教材 / アプリ教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	成績評価は口頭テスト、小テスト、その他授業態度等を合わせて総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	20			
	その他	30			
履修上の留意事項	グループワークが多いので、積極的な参加や学生間で協力する姿勢を高く評価します。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業の進め方、取り組み方 / 自己紹介作成、発表		
	2	chapter 1 コミュニケーション力の基礎固め 短いひとこと	unit 1-3 世界共通挨拶/初対面挨拶/出会いと別れ際の連続 Thanks		
	3	chapter 1	unit 4-6 間違いやすいあいさつ イントネーション 別れ際の定番		
	4	chapter 1	unit 7-9 出会い頭定番表現 サウンドノック 数字ノック		
	5	chapter 1	unit 10-11 スポーツジムでの模擬会話 まずはあいさつ / 名前をしっかりと伝えよう		
	6	chapter 1	unit 11 challenge 模擬会話 保険の登録/入会特典の案内		
	7	chapter 2 ひとこと + 簡単一文	unit 12-13 返事 + How about you? 褒められて Thanks プラス1		
	8	chapter 2	unit 14-15 質問で聞き返す Spell it out! スペル伝達ノック		
	9	chapter 2	unit16- (17) Yes/No に補足1文プラスノック		
	10	chapter 2	unit18-19 名前を上手に伝える (日→英) 道案内の基本表現 (道を教える)		
	11	chapter 2	unit20 (日→英) 道案内の基本表現 (道を聞く) / unit 22 会話実践 道案内		
	12	chapter 2	unit 22 会話実践 道案内		
	13	chapter 3 ひとこと + 補足の一文 (二刀流) Yes も No もどちらでも返す技	unit 23-24 ホテル定番/オンラインやり取り		
	14	chapter 3	unit 25-26 レストラン定番 (オーダー編)(食事編) まとめ		
	15	前期 口頭テスト			
	16	chapter 3	unit 27-28 ショッピング定番 Friend 定番ノック		
	17	chapter 3	unit 30 天気や自然の質問 (テンが良く、淡々と)		
	18	chapter 3	unit 33 会話実践 会話 challenge はじめてのオンライントーク		

	19	chapter 4 中級編 ひとこと + 補足 2 文 自分の好みや身近なこと	unit 34 Do you... ? 現在形 Round 1, Round 2 and Round 3
	20	chapter 4	unit 35 Was, Did, Were... ? 過去形 Round 1, Round 2 and Round 3
	21	chapter 4	unit 36 Have you ever... ? 現在完了形 Round 1, Round 2 and Round 3
	22	chapter 4	unit 36 Have you ever... ? 現在完了形 Round 1, Round 2 and Round 3
	23	chapter 5 中級編 ひとこと + 補足 2 文 情報や感想を伝える	unit 40 Who... ? ~はだれですか？ Round 1, Round 2
	24	chapter 5	unit 41 What... ? ~は何ですか？ Round 1, Round 2
	25	chapter 5	unit 42 Where ... ? ~はどこですか？ Round 1, Round 2
	26	chapter 5	unit 43 When... ? ~はいつですか？ Round 1, Round 2
	27	chapter 5	unit 44 How... ? どれくらい~ですか？ Round 1, Round 2
	28	review	振り返り まとめ
	29	review	振り返り まとめ
	30	試験	口頭テスト
	31		

[illegible]

授業科目	障がいとスポーツ〔MT3・PH3〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	障がい者の心身を理解し、障がい者に対するスポーツ・運動指導技術や導入の仕方を習得する。				
到達目標	実際に障がいを持つ方に対して運動指導が出来る。				
テキスト・参考図書等	障がい者スポーツ指導教本（初級・中級）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	テスト、その他(受講姿勢、受講態度等を)考慮し、評価します。		
	レポート	60			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	40			
履修上の留意事項	毎回の授業では web 上に設定した提出先に課題を提出することで評価対象とします。「障害者スポーツ指導教本（初級・中級）」のテキストより課題等を配布し、授業を展開していきます。必要に応じて各自で用意するものもあります。その都度指示します。様々な障がいについて、対象者に合わせたスポーツの導入の仕方などを学んでいき、楽しく授業を行っていきましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	授業内容と説明		
	2	障がいの理解	障がい及び障がい者とは		
	3	障がいの理解	障がい者福祉施策の理解		
	4	障がいの理解	障がい者スポーツの意義と理念		
	5	障がいの理解	身体障がい（聴覚障がい、視覚障がい）		
	6	障がいの理解	身体障がい（内部障がい）		
	7	障がいの理解	身体障がい（肢体障がい）		
	8	障がいの理解	知的障がい		
	9	障がいの理解	知的障がい		
	10	障がいの理解	発達障がい		
	11	障がいの理解	精神障がい		
	12	障がいとスポーツ	コミュニケーションスキルの基礎		
	13	障がいとスポーツ	コミュニケーションスキルの基礎		
	14	障がいとスポーツ	全国障がい者スポーツ大会の概要		
	15	障がいとスポーツ	各地域の障がい者スポーツ推進の取り組み		
	16	障がいの理解	高齢者の障がいについて		
	17	障がいの理解	高齢者の障がいについて		
	18	障がいとスポーツ	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質		
	19	安全管理	リスクマネジメント		
	20	安全管理	応急手当、救急手当		
	21	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫	身体障がい者とスポーツ、レクリレーション		
22	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫	知的障がい、精神障がい者とスポーツ、レクリエーション			

	23	障がい者スポーツとレクリエーション	レクリエーションの基礎（実習）
	24	障がい者スポーツとレクリエーション	レクリエーションの応用（実習）
	25	障がい者スポーツとレクリエーション	レクリエーション総合演習（実習）
	26	障がいの理解	障がい者スポーツ総合演習（実習）
	27	障がいの理解	障がい者スポーツ総合演習（実習）
	28	障がいの理解	障がい者スポーツ総合演習（実習）
	29	障がいの理解	障がい者スポーツ総合演習（実習）
	30	まとめ	レポートの作成

[illegible]

授業科目	情報基礎〔トレ3〕		担当教員	宮野 ゆかり	
対象年次・学期	3年 / 2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	ビジネスの場面に必要とされる、PC操作と情報の扱い方を学習する。				
到達目標	資料作成およびデータの整理と活用にむけて、WordならびにExcelの基本操作方法を理解し、場面に応じて使用できる。				
テキスト・参考図書等	授業時に適宜プリントを配布する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	20	提出物、試験課題、その他（受講態度等）を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	60			
	その他	20			
履修上の留意事項	毎回の授業では、各自が使用するPCを用いて、授業時に指定する方法で課題を提出することにより、上記「提出物」の評価とする。 第15・30回目の授業では、クラスルーム内等に設置した提出先に締切までに試験課題を提出することで上記「試験」の評価とする。 授業内容は進度によって変更になる場合があります。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーションと授業の導入	講義の進め方と試験方法、成績評価等のガイダンス		
	2	PCの基本操作	PCの基本操作やキーボードについて		
	3	Wordの基本操作	文字入力練習		
	4	Wordの基礎	ページ設定・書式設定		
	5	Wordの基礎	表作成・画像の挿入		
	6	Wordの活用	ビジネス文書の基礎		
	7	Wordの活用	ビジネス文書の作成		
	8	Wordの活用	地図作成（図形の応用）		
	9	Wordの活用	地図付きビジネス文書		
	10	Wordの活用	デザイン文書（段組み・ページ罫線）		
	11	Wordの活用	差し込み印刷（案内状）		
	12	Wordの活用	差し込み印刷（名刺）		
	13	powerpointの基礎	シート作成とデザイン		
	14	powerpointの活用	プレゼンテーション資料の作成		
	15	前期のまとめ	前期の授業内容のまとめと復習、試験課題		
	16	Excelの基本操作	シート入力・オートフィル		
	17	Excelの基礎	四則演算		
	18	Excelの基礎	関数の利用（合計・平均・個数・最大値・最小値）		
	19	Excelの基礎	関数の利用（順位付け・四捨五入・切り上げ・切り捨て）		
	20	Excelの基礎	関数の利用（判定・表検索）		
	21	Excelの基礎	グラフの作成		

	22	Excel の基礎	データベース機能
	23	Excel の活用	在庫管理作成（条件付き書式）
	24	Excel の活用	体重管理作成（複合グラフ）
	25	Excel の活用	インターネットの利用
	26	Word と Excel の連携	グラフの入ったビジネス文書
	27	powerpoint と Excel の連携	絵グラフのスライド利用
	28	powerpoint の応用	紙芝居作成（音・アニメーションの挿入）
	29	情報倫理	インターネットを利用した情報の活用と倫理
	30	後期のまとめ	後期の授業内容のまとめと復習、試験課題

[illegible]

授業科目	生活習慣病の知識〔MT3・PH3〕		担当教員	上田 竜也	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	生活習慣病における疾患名やその病態、危険因子、治療やどのような経過を辿るか理解すること。 また、幅広い知識を習得することで資格取得向上に繋げ、より高度な指導ができるトレーナーや医療人となるようにする。				
到達目標	生活習慣病に繋がる疾患名とその病態を理解する。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポートや小テスト、出席、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	0			
	その他	50			
履修上の留意事項	配布プリントに沿った講義展開を行います。 課題を提出してもらうこともあります。(その際は事前に通達します。)				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業内容説明・生活習慣病に関わる就職先や仕事内容、生活習慣病の定義		
	2	生活習慣病概要	生活習慣病の原因と起因する疾病・歴史・現状		
	3	メタボリックシンドローム	概念、判断基準、運動の意義、予防、治療、問題		
	4	肥満・肥満症	定義、判断基準、減量の考え方、予防、治療、運動療法の適応と禁忌、問題		
	5	肥満・肥満症	定義、判断基準、減量の考え方、予防、治療、運動療法の適応と禁忌、問題		
	6	高血圧	定義、診断基準、分類、合併症、自然歴、治療、減量、問題		
	7	高血圧	定義、診断基準、分類、合併症、自然歴、治療、減量、問題		
	8	確認小テスト	履修した内容の確認テスト		
	9	脂質異常症	定義、分類、予防、治療、運動療法の指針、問題		
	10	耐糖能異常・糖尿病	概念、分類、診断基準、病態、有病率、合併症、治療の基本と実際、問題		
	11	耐糖能異常・糖尿病	概念、分類、診断基準、病態、有病率、合併症、治療の基本と実際、問題		
	12	虚血性心疾患とリハビリテーションにおける運動処方	心疾患の理解、定義、概念、病態理解、分類、冠危険因子、心血管リハの効果、機序、適応、禁忌、内容を理解し、問題を解く。		
	13	虚血性心疾患とリハビリテーションにおける運動処方	疾患の理解、定義、概念、病態理解、分類、冠危険因子、心血管リハの効果、機序、適応、禁忌、内容を理解し、問題を解く。		
	14	ロコモティブシンドローム	定義、概念、運動器疾患と障害、判定基準、サルコペニア、フレイル、対処方法、問題		
	15	ロコモティブシンドローム	定義、概念、運動器疾患と障害、判定基準、サルコペニア、フレイル、対処方法、問題		
	16	確認小テスト	履修した内容の確認テスト		
	17	運動器退行性疾患	概念、有病率、危険因子、運動指導、治療ガイドライン、問題		
18	骨粗鬆症	概念、定義、病態理解、分類、治療や予防を理解する。			

	19	呼吸器疾患	COPD を理解する。
	20	呼吸器疾患	COPD を理解し、問題を解く。
	21	悪性新生物（がん）	成因、病態、罹患数、検診、対策、運動と食事の意義、問題
	22	悪性新生物（がん）	成因、病態、罹患数、検診、対策、運動と食事の意義、問題
	23	認知症	分類、危険因子、軽度認知障害の重要性、運動の意義、問題
	24	認知症	分類、危険因子、軽度認知障害の重要性、運動の意義、問題
	25	確認小テスト	履修した内容の確認テスト
	26	高尿酸血症	概念、定義、病態理解、分類、治療や予防を理解する。
	27	脳卒中	概念、定義、病態理解、分類、治療や予防を理解する。
	28	生活習慣に関連する生活習慣病を全体的に再理解する	食習慣、運動習慣、飲酒習慣、喫煙習慣、ストレスと休養習慣の5つに着眼して理解する
	29	年間復習	学習してきた内容を復習
	30	確認小テスト	履修した内容の確認テスト

授業科目	生活習慣病の知識〔 MT3・PH3 〕	担当 教員 実務 経験	上田 竜也 有： ■ 無： □	柔道整復師、健康運動指導士
対象年次・学期	3 年 ・ 通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	スポーツプログラマー対策 〔トレ３・健康２〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	３年／２年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	スポーツプログラマー検定の合格及び資格取得に向けて論理的に理解する。				
到達目標	スポーツプログラマー検定の合格及び資格取得に向けて、得点平均 8 割台を目標とする。				
テキスト・ 参考図書等	スポーツプログラマー専門科目テキスト 必要に応じて、資料を配布				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	小テスト 50% その他 50%（受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 20%）		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	0			
	その他	50			
履修上の 留意事項	教本、資料を参考に論理的に授業を進め、模擬試験で理解度を確認する。				
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	運動と健康	運動と健康		
	2	運動と健康	スポーツプログラマーの役割		
	3	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	フィットネス・トレーニング		
	4	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	マシーントレーニング		
	5	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	ヘルス・エクササイズ		
	6	フィットネス・エクササイズ と健康管理	フィットネス・エクササイズと体調		
	7	フィットネス・エクササイズ と健康管理	ウォーミングアップとクーリングダウン		
	8	体力測定と評価	体力測定の方法、測定結果の処理、体力評価とスポーツ プログラム		
	9	フィットネスプログラムの 実際	フィットネスプログラムの基本的な方法		
	10	フィットネスプログラムの 実際	子ども・中年のフィットネスプログラム		
	11	フィットネスプログラムの 実際	高齢者・女性・障害者のフィットネスプログラム		
	12	スポーツ相談の実際	スポーツ相談の意義、スポーツ相談の実際		
	13	確認テスト	過去問題 、解答、説明		
	14	確認テスト	過去問題 、解答、説明		
15	確認テスト	過去問題 、解答、説明			

[illegible]

授業科目	BRSO 対策〔トレ 3・IN2・CO2・TR2〕		担当教員	高田 健介	
対象年次・学期	3 年 / 2 年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	安心・安全にリラクゼーションを行う為の試験対策				
到達目標	BRSO 検定合格				
テキスト・参考図書等	リラクゼーションセラピストのための教科書 ポディリラクゼーション従事者安全・安心機構 静風社				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	試験、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	検定対策で模試と解答を中心に講義をします。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	模試 1 回目	本番を想定した過去問や練習問題 1 回目		
	2	解答・解説	模試の解答・解説		
	3	実技対策	基本手技の練習		
	4	模試 2 回目	本番を想定した過去問や練習問題 2 回目		
	5	解答・解説	模試の解答・解説		
	6	実技対策	基本手技の練習		
	7	模試 3 回目	本番を想定した過去問や練習問題 3 回目		
	8	解答・解説	模試の解答・解説		
	9	実技対策	実技試験の流れの練習		
	10	模試 4 回目	本番を想定した過去問や練習問題 4 回目		
	11	解答・解説	模試の解答・解説		
	12	実技対策	実技試験の流れの練習		
	13	模試 5 回目	本番を想定した過去問や練習問題 5 回目		
	14	解答解説	模試の解答・解説		
	15	実技対策	実技試験の流れの練習		

[illegible]

授業科目	水泳コーチ 対策理論〔トレ 3・健康 2〕		担当教員	今井 由美子	
対象年次・学期	3 年 / 2 年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結び付ける。水泳コーチ 1 検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。				
到達目標	模擬試験 で 6 割以上の点数を取る。				
テキスト・参考図書等	水泳指導教本				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		小テスト、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する		
	レポート				
	小テスト	80			
	提出物				
	その他	20			
履修上の留意事項	3 科目ある学科の模擬試験を全て 6 割以上取れるように、教本をよく読み、問題を理解しよう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	小テスト	復習とまとめ		
	2	模擬試験	模擬試験		
	3	模擬試験 解答・復習	解答・間違えた問題の分析		
	4	第 2 章 水泳指導	記述問題対策		
	5	第 3 章 水泳の安全	出題傾向の多い箇所の復習		
	6	第 4 章 水泳の化学	出題傾向の多い箇所の復習		
	7	模擬試験	模擬試験		
	8	模擬試験 解答・復習	解答・間違えた問題の分析		
	9	特別対策	苦手な部分の傾向と対策		
	10	特別対策	苦手な部分の傾向と対策		
	11	特別対策	苦手な部分の傾向と対策		
	12	模擬試験	模擬試験		
	13	模擬試験 解答・復習	解答・間違えた問題の分析		
	14	模擬試験	模擬試験		
	15	模擬試験 解答・復習	解答・間違えた問題の分析		

[illegible]

授業科目	水泳コーチ 対策実技〔トレ3・健康2〕		担当教員	今井 由美子	
対象年次・学期	3年 / 2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
					30 時間
授業目的	各種泳法の基本技術を向上させ、指導員として模範となる泳ぎを習得する。効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のタイムアップを目指し、水泳コーチ1の取得を目指す。				
到達目標	泳法を改善することで、より速い個人メドレーを泳ぐ事が出来る。				
テキスト・参考図書等	水泳指導教本・プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	小テスト、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	80			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	各種泳法等の技術習得は、様々な指導をする上での自信になりますし、幅広く活用できます。最終目標は個人メドレーのタイムを切る事です。体調を万全にして授業に臨んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	能力確認	個人メドレータイム計測・基本技術確認・横泳ぎ		
	2	能力確認	タイム計測・基本技術確認・横泳ぎ		
	3	各種泳法スキルアップ	Fr / スピードトレーニング		
	4	各種泳法スキルアップ	Ba / スピードトレーニング		
	5	各種泳法スキルアップ	Br / スピードトレーニング		
	6	各種泳法スキルアップ	Fly / スピードトレーニング		
	7	各種泳法スキルアップ	IM ターン / スピードトレーニング		
	8	タイム測定	個人メドレータイム測定		
	9	各種泳法スキルアップ	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み		
	10	各種泳法スキルアップ	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み		
	11	各種泳法スキルアップ	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み		
	12	各種泳法スキルアップ	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み		
	13	泳法確認	個人メドレー、潜行、横泳ぎ、飛び込み		
	14	タイム測定	個人メドレータイム測定		
15	タイム測定	個人メドレータイム測定			

[illegible]

授業科目	三年次研究課題　〔トレ３〕		担当教員	教員　未登録	
対象年次・学期	３年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。				
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。		
	レポート	60			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	下肢のスポーツ外傷・障害 1	ＡＣＬ 損傷		
	2	下肢のスポーツ外傷・障害 2	ＰＣＬ 損傷		
	3	下肢のスポーツ外傷・障害 3	ＭＣＬ 損傷、ＬＣＬ 損傷		
	4	下肢のスポーツ外傷・障害 4	大腿部打撲、膝蓋靱帯炎		
	5	下肢のスポーツ外傷・障害 5	アキレス腱断裂		
	6	下肢のスポーツ外傷・障害 6	足関節内反捻挫、偏平足障害		
	7	上肢のスポーツ外傷・障害 1	肩関節脱臼（コンタクト）		
	8	上肢のスポーツ外傷・障害 2	肩鎖関節脱臼		
	9	上肢のスポーツ外傷・障害 3	肩インピンジメント症候群		
	10	上肢のスポーツ外傷・障害 4	肘ＭＣＬ 損傷		
	11	上肢のスポーツ外傷・障害 5	突き指、ＴＦＣＣ 損傷		
	12	体幹のスポーツ外傷・障害 1	腰椎椎間板ヘルニア		
	13	体幹のスポーツ外傷・障害 2	腰椎分離症		
	14	体幹のスポーツ外傷・障害 3	筋膜性腰痛		
	15	体幹のスポーツ外傷・障害 4	頸椎捻挫、頸椎椎間板ヘルニア		
	16	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ		
	17	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ		
	18	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ		
	19	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ		

	20	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント
	21	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント
	22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント
	23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント
	24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント
	25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価
	26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価
	27	物理療法と装具・インソール	物理療法
	28	物理療法と装具・インソール	リハビリテーションに用いる装具
	29	物理療法と装具・インソール	歩行と足底挿板
	30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

[illegible]

授業科目	三年次研究課題〔トレ3〕		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。				
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。		
	レポート	60			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	解剖学的用語の確認	体表の区分・運動の表し方		
	2	骨・関節の構造と機能	骨の構造・関節の構造・靱帯の構造		
	3	筋・腱の構造と機能	筋に関する生理学		
	4	骨格筋の神経支配と反射	筋に関する生理学		
	5	脳（運動発現プログラム）	運動プログラム		
	6	脳（運動発現プログラム）	運動プログラム		
	7	消化器と栄養吸収	咀嚼・胃・小腸・肝臓		
	8	消化器と栄養吸収	咀嚼・胃・小腸・肝臓		
	9	呼吸器と呼吸運動	鼻腔～肺の構造と働き		
	10	循環器系と血液	心臓の構造と働き、血液		
	11	上肢帯の運動：肩・肘・手	肩関節に関する運動、肘関節に関する運動、手関節に関する運動		
	12	下肢帯の運動：足・膝	足関節の運動、膝関節の運動		
	13	体幹＋下肢帯の運動：股関節	腰椎と股関節の運動		
	14	体幹の基礎解剖と運動：頸椎	体幹の基礎解剖と運動、頸椎の運動		
	15	体幹の基礎解剖と運動：胸椎	胸椎と胸郭の運動		
	16	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ		
	17	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ		
	18	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ		
	19	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ		
	20	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント		
	21	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント		

	22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント
	23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント
	24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント
	25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価
	26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価
	27	物理療法と装具・インソール	物理療法
	28	物理療法と装具・インソール	リハビリテーションに用いる装具
	29	物理療法と装具・インソール	歩行と足底挿板
	30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

[illegible]

授業科目	三年次研究課題〔トレ3〕		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。				
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。		
	レポート	60			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	チームワーク 集団とチーム	チームワークと集団の違い、チーム形成のプロセス		
	2	チームワーク チームミーティング	チームミーティング 役割を分担の理解と相互依存関係について		
	3	チームワーク チームビルディング	チームビルディングの概要と効果的なアプローチ		
	4	心理的サポートの必要性	心理サポートを求める選手の特徴と傾向		
	5	指導者による心理的サポート 非言語表現	非言語的・準言語コミュニケーションの理解と実際		
	6	指導者による心理的サポート 言語表現	言語的コミュニケーションの理解と実際		
	7	指導者による心理的サポート 演習	コミュニケーションを用いた演習・傾聴スキルとは		
	8	スポーツカウンセリング 基本姿勢	カウンセリングの基本姿勢、アセスメント・ラポールについて		
	9	スポーツカウンセリング 質問他	質問のねらいと種類、感情の転移・逆転移の理解		
	10	心のコンディショニング 覚醒水準の違い	最適な覚醒水準の違い・ピークパフォーマンスについて		
	11	心のコンディショニング セルフモニタリング	セルフモニタリングの種類・最適な自分の情動状態を知る		
	12	発育発達 of 心理	ジュニア期特徴と対応、学習理論について		
	13	発育発達 of 心理	思春期の対応と青年期以降の対応		
	14	メンタルマネジメント、ストレスと認知変容	ストレスの概要、ABC理論について		
	15	メンタルトレーニングの活用の実際	メンタルトレーニング活用方法とサポートの実際		
	16	研究課題			
	17	研究課題			
	18	研究課題			
	19	研究課題			
	20	研究課題			

	21	研究課題	
	22	研究課題	
	23	研究課題	
	24	研究課題	
	25	研究課題	
	26	研究課題	
	27	研究課題	
	28	研究課題	
	29	研究課題	
	30	研究課題	

授業科目	三年次研究課題　〔トレ３〕	担当 教員 実務 経験	齋藤敬男 有：■　　無：□	スポーツ指導者
対象年次・学期	3 年・集中	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	スノーボード・スキー実習 〔トレ3〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数		時間数
授業目的	スキー・スノーボードにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。 スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。				
到達目標	冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての 資質を身に付ける。				
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料等配布する。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート・提出物等の状況を総合的に評価する その他は受講姿勢等で評価する		
	レポート	10			
	小テスト	0			
	提出物	10			
	その他	80			
履修上の 留意事項	宿泊研修という決まりの中で、自己管理、時間管理を徹底して行う事。				
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	事前説明会	目的、注意事項伝達		
	2	1日目午後レッスン開始	各班に分かれ道具の特性・理論等を学ぶ		
	3	1日目ミーティング	1日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	4	1日目ナイター練習	1日目に学んだことを復習する。		
	5	2日目午前レッスン開始	1日目より難易度の高い事を学ぶ		
	6	2日目午後レッスン開始	1日目より難易度の高い事を学ぶ		
	7	2日目ミーティング	2日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	8	2日目ナイター練習	2日目に学んだことを復習する。		
	9	3日目午前レッスン開始	2日目より難易度の高い事を学ぶ		
	10	3日目午後レッスン開始	2日目より難易度の高い事を学ぶ		
	11	3日目ミーティング	3日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	12	3日目ナイター練習	3日目に学んだことを復習する。		
	13	4日目午前レッスン開始	各班に分かれ、検定へ向けてレッスンをする		
	14	4日目検定	今まで学んだことを踏まえて検定に臨む		
	15	4日目ミーティング	4日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		

[illegible]

授業科目	ボランティア活動〔トレ 3〕		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的					
到達目標					
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験				
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		

授業科目	ボランティア活動〔トレ3〕	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学期		担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	検定対策　〔PH3〕		担当教員	菊地　健太	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数		時間数
授業目的	トレーニング指導者として相応しい知識や技術の習得を目指す				
到達目標	JATI トレーニング指導者の資格概要を理解し、多様なトレーニングプログラムを立案することができる				
テキスト・参考図書等	トレーニング指導者テキスト理論編、実践編				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		授業内におけるレポートや所見、出席状況を評価する		
	レポート	30			
	小テスト				
	提出物				
	その他	70			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業説明、評価や諸注意、トレーニング指導者について		
	2	JATI トレーニング指導者受験を終えての反省	JATI トレーニング指導者 1 回目の受験を終えて反省・改善点のレポート作成		
	3	模擬試験	模擬試験（理論編）		
	4	模擬試験	模擬試験（実践編）		
	5	トレーニングの実技と指導法	レジスタンストレーニングの実技と指導法		
	6	トレーニングの実技と指導法	レジスタンストレーニングの実技と指導法		
	7	トレーニングの実技と指導法	パワートレーニングの実技と指導法		
	8	トレーニングの実技と指導法	パワートレーニングの実技と指導法		
	9	トレーニングの実技と指導法	持久力向上トレーニングの実技と指導法		
	10	トレーニングの実技と指導法	持久力向上トレーニングの実技と指導法		
	11	トレーニングの実技と指導法	スピードトレーニングの実技と指導法		
	12	トレーニングの実技と指導法	スピードトレーニングの実技と指導法		
	13	トレーニングの実技と指導法	ウォームアップと柔軟性トレーニング その他のトレーニングの実技と指導法		
	14	トレーニングの実技と指導法	ウォームアップと柔軟性トレーニング その他のトレーニングの実技と指導法		
	15	前期復習			
	16	前期復習			
	17	問題作成			
	18	問題作成、問題実施			
	19	問題作成、問題実施			
	20	問題作成、問題実施			

	21	問題作成、問題実施	
	22	問題作成、問題実施	
	23	問題作成、問題実施	
	24	問題作成、問題実施	
	25	問題作成、問題実施	
	26	問題作成、問題実施	
	27	問題作成、問題実施	
	28	問題作成、問題実施	
	29	模擬試験	模擬試験（理論編）
	30	模擬試験	模擬試験（実践編）

授業科目	検定対策〔PH3〕	担当教員 実務経験	菊地健太 有：■ 無：□	トレーニング指導者
対象年次・学期	3年・通年	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	検定対策　〔PH3〕	担当教員	今井　由美子		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	フィットネスクラブ・マネジメント技能士に必要な知識を学び、検定合格を目指す。				
到達目標	フィットネスクラブ・マネジメント技能士合格に向け、理解し検定前の模擬試験で合格する。				
テキスト・参考図書等	フィットネスクラブマネジメント公式テキスト・過去問題				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	各章終了後の小テスト、提出物、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	60			
	提出物	30			
	その他	10			
履修上の留意事項	各講義毎にテキストに沿った講義形式にて板書等、説明を交えながら授業を展開する。実務に繋がられるよう即実践できる内容にしていきます。役立てられるよう習得しましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス、過去問題、第1章	授業の趣旨、内容説明、第1章1節日々とネス産業の現状		
	2	第1章　フィットネス産業	第1章　第2節フィットネス業界の歴史、第3節フィットネス産業の特徴		

[illegible]

授業科目	ボディメイク実践　〔PH3〕		担当教員	内田　瑞希	
対象年次・学期	3年・全期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数		時間数
授業目的	実際にトレーニングを実施し、目的や効果、フォームなどを身につけてもらい現場や自分のトレーニングに活かしてもらうこと。また、様々なトレーニングやセット法などを通してどのような場面で活用するか考え取り組んでもらうこと。				
到達目標	学習したことを継続してもらい、一つでも多くの知識を増やしていくこと。				
テキスト・参考図書等	プリントを配布します。 JATIの教科書などを用います。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		出席日数、受講態度や積極的に取り組んでいるかなど総合的に評価いたします。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
	その他	100			
履修上の留意事項	実技がメインになるので様々な種目をこなし、しっかり追い込みボディメイクについて学び有意義な時間にしていきましょう！ 去年の復習をしつつより深く知識を追求し頑張っていきましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ボディメイクトレーニング	オリエンテーション 自己紹介/授業の進め方について/ボディメイクについての説明		
	2	ボディメイクトレーニング	大胸筋トレーニング		
	3	ボディメイクトレーニング	大胸筋トレーニング		
	4	ボディメイクトレーニング	大胸筋トレーニングのメニュー作成・実践		
	5	ボディメイクトレーニング	腰背部トレーニング		
	6	ボディメイクトレーニング	腰背部トレーニング		
	7	ボディメイクトレーニング	腰背部のトレーニングメニュー作成・実践		
	8	ボディメイクトレーニング	上腕/前腕トレーニング		
	9	ボディメイクトレーニング	上腕/前腕トレーニング		
	10	ボディメイクトレーニング	上腕/前腕トレーニングのメニュー作成・実践		
	11	ボディメイクトレーニング	三角筋トレーニング　(前部)		
	12	ボディメイクトレーニング	三角筋トレーニング　(中部)		
	13	ボディメイクトレーニング	三角筋トレーニング　(後部)		
	14	ボディメイクトレーニング	三角筋トレーニングのメニュー作成・実践		
	15	ボディメイクトレーニング	脚トレーニング　(大腿四頭筋)		
	16	ボディメイクトレーニング	脚トレーニング　(ハムストリングス)		
17	ボディメイクトレーニング	脚トレーニングのメニュー作成・実践			

	18	ボディメイクトレーニング	腹部のトレーニング
	19	ボディメイクトレーニング	腹部のトレーニングメニュー作成・実践
	20	ボディメイクトレーニング	スーパーセット法を用いたトレーニング
	21	ボディメイクトレーニング ②①	コンパウンドセット法を用いたトレーニング
	22	ボディメイクトレーニング ②②	トライセット法を用いたトレーニング
	23	ボディメイクトレーニング ②③	ジャイアントセット法を用いたトレーニング
	24	ボディメイクトレーニング ②④	プレエグゼーション法を用いたトレーニング
	25	ボディメイクトレーニング ②⑤	マルチ・パウンデッジ法を用いたトレーニング
	26	ボディメイクトレーニング ②⑥	フラット・ピラミッド法を用いたトレーニング
	27	ボディメイクトレーニング ②⑦	ダブル・ピラミッド法を用いたトレーニング
	28	ボディメイクトレーニング ②⑧	High Intensity Interval Training (高強度インターバルトレーニング)の活用法・実践
	29	ボディメイクトレーニング ②⑨	カウンセリング+ パーソナルトレーニング
	30	ボディメイクトレーニング ③⑩	カウンセリング+ パーソナルトレーニング

[illegible]

授業科目	フィジカルコンディショニング〔PH3・TR2〕		担当教員	小倉 大生	
対象年次・学期	PH3 年・TR2 年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数		時間数
授業目的	フィジカルコンディショニングの基本概念を理解し、クライアント様の健康・パフォーマンス向上のために適切な評価、プログラム設計、実践ができるスキルを身につける。本授業では、身体評価・コンディショニングアプローチを実技形式で学び、現場で即戦力となるトレーナーの育成を目指す。				
到達目標	クライアントの身体を適切に評価し、必要な介入方法を選択できるようになる。 ストレッチ・モビリティ・アクティベーション・リカバリー手法をわかりやすく、実践・指導できるようになる。 コンディショニングの理論と実技を統合し、各種競技やライフステージに対応したプログラムを作成できるようになる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	試験の点数、小テスト、授業態度、意欲、姿勢で判断する。		
	レポート				
	小テスト	20			
	提出物				
	その他	30			
履修上の留意事項	この授業はトレーナーズルームの治療ベッドを活用し、実技を中心に進めます。 授業中に評価や施術を行うため、半袖、短パンを着用してください。(ジャージ生地に限る) 解剖学・生理学の基礎知識を前提とした授業内容となるため、必要に応じて復習を行ってください。 ペアワークが多いため、積極的なコミュニケーションを心がけ、相手への配慮を持って授業に臨んでください。 実技中の安全管理を徹底し、正しい判断でアプローチを行う習慣を身につけましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	授業評価について		
	2	フィジカルコンディショニングとは			
	3	ピリオダイゼーション	ピリオダイゼーション・目標に対するピークの作り方		
	4	ピリオダイゼーション	ピリオダイゼーション・目標に対するピークの作り方		
	5	ピリオダイゼーションを用いたトレーニング計画とコンディショニング	ピリオダイゼーション・目標に対するピークの作り方・トレーニングメニュー作成(グループワーク)		
	6	ピリオダイゼーションを用いたトレーニング計画とコンディショニング	ピリオダイゼーション・目標に対するピークの作り方・トレーニングメニュー作成(グループワーク)		
	7	コンディション評価	コンディション指標		
	8	関節可動域と柔軟性	関節可動域評価・正常関節可動域把握		
	9	関節可動域と柔軟性	関節可動域評価・正常関節可動域把握・改善エクササイズ・正常可動域小テスト		
	10	動作評価	正常可動域小テスト・基本的なトレーニング種目の動作評価		
	11	動作評価	基本的なトレーニング種目の動作評価・スプリント動作評価		
	12	動作評価	切り返し動作評価・様々なスポーツ動作評価		
	13	動作評価	様々なスポーツ動作評価		
	14	前期の復習			
	15	テスト	筆記試験・コンディショニングメニュー発表		
	16	フィジカルテスト	フィジカルテスト評価		

	17	フィジカルテスト・ストレッチ法	フィジカルテスト評価・ストレッチ方法
	18	ストレッチ法	ストレッチ方法・実践・パートナーストレッチ
	19	ストレッチボール	ストレッチボール実践
	20	ストレッチボール	ストレッチボール実践
	21	フォームローラー	フォームローラー実践
	22	フォームローラー	フォームローラー実践
	23	リカバリー法	クーリングダウン・アイシング
	24	睡眠・脱水・水分補給	睡眠・脱水・水分補給の基本
	25	睡眠	睡眠・時差について
	26	トレーニング計画とコンディショニング	グループワーク
	27	トレーニング計画とコンディショニング	グループワーク
	28	トレーニング計画とコンディショニング	グループワーク
	29	トレーニング計画とコンディショニング・復習	グループ発表・復習
	30	テスト	筆記試験

[illegible]

授業科目	パーソナルトレーナー実践 〔PH3〕		担当教員	村岡 直哉	
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数		時間数
授業目的	この授業は、パーソナルトレーナーとして現場で必要とされるスキルを実践的に学び、多様なクライアントのニーズに対応できる指導力を育成することを目的とします。これにより、専門性を活かしてクライアントの健康とフィットネス目標を達成するサポートができるプロフェッショナルを育てます。				
到達目標	トレーナーとしての基本的な役割と倫理を理解し、適切なコミュニケーションが取れるようになること。 筋力トレーニング、有酸素運動、ストレッチなどの基本的なトレーニング技術を安全かつ効果的に指導できるスキルを身に付けること。 クライアントの評価とトレーニングプラン作成を実践的に行い、個別化された指導ができる能力を習得すること。 多様なニーズを持つクライアント（例：高齢者、妊婦、既往症を持つ方）に適切に対応できる専門知識と実践力を養うこと。 グループセッションの運営やマーケティングを通じて、トレーナーとしての自己ブランド構築に必要なスキルを習得すること。				
テキスト・参考図書等	手持ちのテキストを使用し、実技メインの授業を実施致します。 手持ちの参考書を使用し、実技メインの授業を実施致します。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	評価内容	実技試験	提出物内容や、授業の取り組み姿勢を評価基準とする。		
	評価内容	レポート課題			
	評価割合	50			
	評価割合	50			
履修上の留意事項	実技内容がメインとなるため、しっかりと授業に積極的に参加する事、わからない事などはそのままにせず自発的に行動をすることを留意点とする。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	パーソナルトレーナーの基礎	内容：役割と基本スキルの説明、ペアワークでのコミュニケーション練習。 目的：トレーナーとしての基礎を学ぶ。		
	2	フィットネス評価技術	内容：基本的な評価方法（柔軟性、筋力、持久力テスト）の実技。 目的：クライアントの状態を評価するスキルを習得。		
	3	レジスタンストレーニング技術	内容：器具別のトレーニング方法（ダンベル、バーベルなど）の実践。 目的：安全で効果的な筋力トレーニング指導を学ぶ。		
	4	有酸素運動の指導	内容：実際の有酸素運動（サーキットトレーニングやランニング）の体験。 目的：クライアントに合った運動強度の調整を習得。		
	5	柔軟性とストレッチの指導	内容：動的ストレッチ、静的ストレッチをペアで実践。 目的：クライアントの柔軟性向上を支援するスキルを習得。		
	6	グループセッション運営	内容：グループ形式の模擬トレーニングセッションの実施。 目的：複数のクライアントを効果的に指導する技術を学ぶ。		
	7	特殊なクライアントへの対応 1	内容：高齢者や妊婦向けのトレーニング方法を模擬体験。 目的：特殊なニーズを持つクライアントに対応するスキルを磨く。		
	8	特殊なクライアントへの対応 2	内容：スポーツ選手や既往症を持つ人へのトレーニング指導実技。 目的：多様なケースに対応する柔軟性を養う。		
	9	栄養とサプリメント	内容：クライアントへの基本的な栄養指導の実践。 目的：トレーニング効果を高めるためのサポートスキルを学ぶ。		

	10	トレーニングプラン作成	内容: クライアントごとの目標設定とプラン作成の実施。 目的: 実用的なプログラムデザインスキルを強化。
	11	トレーニング進行管理	内容: プログラムの進行管理と修正方法を模擬体験。 目的: 長期的なトレーニングサポート技術を習得。
	12	ケーススタディと課題解決	内容: ケーススタディに基づいた模擬セッションとディスカッション。 目的: 実践的な問題解決能力を鍛える。
	13	13 週目: 実践演習 1	内容: 模擬トレーニングセッションを他の受講者で行う。 目的: 指導スキルを実践的に磨く。
	14	実践演習 2	内容: さらに発展をさせたシナリオで模擬セッションを実施。 目的: スキルの応用力を確認。
	15	振り返りとキャリア計画	内容: これまでの学びを振り返り、今後のキャリア設計をグループで議論。 目的: 自己評価と今後の目標設定を行う。

[illegible]

授業科目	スポーツビジネス論〔PH3〕		担当教員	若槻 稜磨	
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数		時間数
授業目的	スポーツは、社会的・経済的側面さらには地域社会との相互関係によって成立していることを理解する。				
到達目標	スポーツビジネスを学ぶ上で基礎となる、地域スポーツやプロスポーツなどについての基礎的な知識を身に着ける。				
テキスト・参考図書等	・柳沢和雄・清水紀宏・中西純司編著『よくわかるスポーツマネジメント』ミネルヴァ書房、2017年。 ・仲澤眞・吉田政幸編著『よくわかるスポーツマーケティング』ミネルヴァ書房、2017年。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		小テストおよび、授業内の提出物を中心に評価する。その他に、授業への参加状況（受講態度や積極性）も加味したうえで成績を決定する。		
	レポート				
	小テスト	40			
	提出物	30			
	その他	30			
履修上の留意事項	講義形式（板書、プリント、視聴覚機器を用いる）を基本としたうえで、受講者には積極的な発言やディスカッションへの参加を求めます。調べものが多いのでPCを持参すること。日頃からスポーツ（特に経験のない種目）に関するニュースを確認しておくこと、理解しやすいかと思います。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	スポーツを仕事にするとはどういうことか		
	2	スポーツ組織のマネジメント	スポーツ組織と経営資源（ヒト・モノ・資本・情報）、プロダクト		
	3	スポーツの概念と歴史	近代スポーツの成立とプロスポーツの誕生		
	4	スポーツの概念と歴史	スポーツ市場の発見とビジネスの成立		
	5	地域スポーツ入門	総合型地域スポーツクラブ		
	6	地域スポーツ入門	学校運動部の地域移行		
	7	地域スポーツ入門	さまざまなスポーツ参加者を知る		
	8	プロスポーツ入門	アメリカにおけるプロスポーツビジネス		
	9	プロスポーツ入門	ヨーロッパにおけるプロスポーツビジネス		
	10	プロスポーツ入門	日本におけるプロスポーツビジネス		
	11	スポーツファンを知る	スポーツファンは何を期待しているか		
	12	スポーツメディアを知る	メディアとスポーツの発展史		
	13	スポーツイベントを知る	地域スポーツイベント		
	14	スポーツイベントを知る	スポーツツーリズム		
	15	授業のまとめ	これまでの授業のまとめと復習		

[illegible]

授業科目	スポーツマーケティング論 〔PH3・SB1・SB2〕		担当教員	若槻 稜磨	
対象年次・学期	前期		必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数		時間数
授業目的	スポーツマーケティングを網羅的に学ぶことで、スポーツ市場の消費者の特性やマーケティングの基本的な考え方を理解する。				
到達目標	受講者自身の専門競技の経験に頼らず、消費者の特性やマーケティングの理論に基づいてスポーツビジネスに関わることができるようになる。				
テキスト・参考図書等	仲澤眞・吉田政幸編著『よくわかるスポーツマーケティング』ミネルヴァ書房、2017 年。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		レポート（学期中に複数作成して提出）を中心に、提出物（各回のコメントシート）とその他（受講姿勢、出席状況、確認テスト）を加味して評価をおこないます。 レポートでは、授業以外の場面でニュースを見たりスポーツを観戦したりして、自分の考えをまとめることを要求します。		
	レポート	50			
	小テスト				
	提出物	30			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	スポーツマーケティングとは何か	なぜスポーツがビジネスになるか		
	2	スポーツマーケティングとは何か	スポーツマーケティングの特性		
	3	スポーツマーケティングのプロセス	スポーツマーケティングの基本的な流れ		
	4	マーケティングの基礎	プロダクト論、価格政策論		
	5	マーケティングの基礎	プロモーション論、流通政策論		
	6	マーケティングの基礎	プロモーション論		
	7	スポーツ消費者の特性	参加型スポーツの消費者		
	8	スポーツ消費者の特性	観戦型スポーツの消費者		
	9	マーケットリサーチ	スポーツマーケティングにおける STP		
	10	スポーツマーケティングの展開	スポンサーシップ		
	11	スポーツマーケティングの展開	スポーツブランドと権利ビジネス		
	12	スポーツマーケティングの展開	顧客価値の創造		
	13	これからのスポーツマーケティング	スポーツマーケティングの未来		
	14	マーケティングの実践	スポーツ市場の調査		
	15	マーケティングの実践	最終発表またはレポート		

[illegible]